



Title	ごあいさつ
Author(s)	松本, 圭史
Citation	癌と人. 2003, 30, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/23700">https://hdl.handle.net/11094/23700</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ごあいさつ

理事長 松本圭史\*

皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、財団法人大阪癌研究会に対し、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

お陰様で、当財団の前身である財団法人大阪癌研究会が昭和10年に設立されて以来、本年を以て68年の歴史を積み重ねてまいりました。戦中・戦後の混乱期を乗り越えて、癌の制圧という嵩高い使命に着々と歩を進めてこられた関係各位のご努力と、当財団に深いご理解とご支援をいただきました会員の皆様に改めて心から敬意を表すものであります。

さて、ここ数年停滞の続く日本経済をよそに、医学は言うまでもなく科学技術の発展ぶりは誠に頼もしい限りと存じます。

しかしながら、一方では医学の進歩がもたらした長寿化・高齢化による年金財政の破綻懸念など経済的問題、核家族の進行が招く少子化という人口構造上の社会問題、また、医療科学面からみても、遺伝子治療・臓器移植などにおける倫理の問題、死亡率の極めて高い癌の制圧など、列挙すれば限りない程に多くの国家的課題が山積しております。

このような社会的背景の中で、「癌に関する学術研究を奨励助成し、癌を解明してその撲滅をはかるとともに、癌に関する知識を一般に普及する」ことを目的として設置された当財団では、「全国の癌研究者への学術研究助成」、「癌に関する会議・シンポジウム及び講演会等の開催経費の一部助成」、また、「癌を正しく理解するための知識の普及活動」などの各事業に力を注ぎ、癌を制圧するために堅実な活動を続け、国家的課題の解決に少なからず寄与してまいりました。

これからも、各事業を通じて癌医学の発展に貢献し、人類の悲願であります癌の撲滅に向かって、本財団の社会的使命を果たしたいと念じております。

現下の景気をはじめとする国内外の諸情勢に未だ明るさが見えませんが、今後とも皆様方の力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

\* 財大阪癌研究会理事長 大阪大学名誉教授